

平成 20 年 2 月期の業績予想及び経営方針

平成 19 年 10 月 11 日

上場会社名 株式会社 吉野家ホールディングス

上場取引所 東

コード番号 9861

本社所在都道府県

(URL <http://www.yoshinoya-holdings.com>)

東京都

代表者 役職名 代表取締役社長

氏名 安部 修仁

問合せ先 責任者役職名 経営戦略室長

氏名 安井 昭裕

TEL (03) 5269-5001

米国会計基準採用の有無

無

単元株制度採用の有無

無

1. 平成 20 年 2 月期の連結業績予想 (平成 19 年 3 月 1 日～平成 20 年 2 月 29 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年2月期	163,000	8,400	9,000	3,500

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 5,547円

(注) 当社グループは、株式会社らーめん一番本部より事業譲受を目的に、平成 19 年 8 月 13 日に 100% 子会社株式会社アール・ワンを設立いたしておりますが、事業譲渡手続が完了していないため、当中間期における連結業績予想には反映しておりません。業績の見込が確定いたしましたら、改めてお知らせいたします。

2. 平成 20 年 2 月期の個別業績予想 (平成 19 年 3 月 1 日～平成 20 年 2 月 29 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
20年2月期	53,300	4,100	4,600	1,300

(参考) 1株当たり予想当期純利益(通期) 2,060円

(注) 個別の業績予想に関しては、平成 19 年 3 月 1 日より平成 19 年 9 月 30 日の期間は株式会社吉野家ディー・アンド・シーの業績予想を、平成 19 年 10 月 1 日より平成 20 年 2 月 29 日の期間は株式会社吉野家ホールディングスの業績予想より作成しております。

3. 配当状況

・現金配当

	1株当たり配当金(円)		
	中間期末	期末	年間
19年2月期	800	800	1,600
20年2月期(実績)	900	-	-
20年2月期(予想)	-	1,100	2,000

(注) 1. 1株当たり配当金につきましては、平成 19 年 2 月期及び平成 20 年 2 月期中間期末につきましては、株式会社吉野家ディー・アンド・シーの配当金額を、平成 20 年 2 月期末につきましては株式会社吉野家ホールディングスの配当予想を表示しております。

2. 連結および個別の 1株当たり予想当期純利益(通期)の算出にあたっては、平成 19 年 8 月 31 日現在の発行済株式数を使用しています。

3. 上記の予想は、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。なお、上記業績予想につきましては、添付資料の 3 ページを参照して下さい。

経営方針

1. 会社の経営の基本方針

当社は平成 19 年 10 月 1 日に行ないました新設分割の方式による会社分割によって、純粋持株会社に移行するとともに、商号を「株式会社吉野家ホールディングス」に変更いたしております。純粋持株会社となりました当社の経営方針といたしましては、『For the People ~すべては人々のために~』というグループの経営理念を軸にした企業集団を形成し、グループ全体最適の観点から経営資源の配分を行ない、グループ企業の長期的かつ安定的な成長を図りたいと考えております。

2. 利益配分に関する基本方針及び当期の配当

当社は、株主への長期的かつ安定的な利益還元を経営の最重要課題のひとつとして考えております。具体的には、連結配当性向 30%程度を目処に業績への連動性を重視した利益配分を行なうことを基本方針としております。内部留保資金の活用につきましては、高収益な事業投資や M&A 等にも積極的に取り組み、将来にわたって株主利益を増大させるための投資を優先してまいりたいと考えております。

なお、平成 20 年 2 月期の（株）吉野家ホールディングスの 1 株当たり期末配当金に関しましては、1,100 円を予定しております。

3. 中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

当社グループの中期経営計画『The Next Stage 2010』の具体的計画といたしましては、次の 3 つの中期事業戦略を策定しております。

まず、国内吉野家事業につきましては、新設分割いたしました株式会社吉野家を中心に、進化による更なる成長といたしまして、低 BEP 店舗の開発、FC エリアの出店加速政策などの新規出店を加速する一方、既存店舗におきましては、進化型吉野家である新フォーマット店舗と、牛丼専売店舗との棲み分けによる出店ポテンシャルの拡大を図ります。加えて、商品戦略といたしましては、牛丼を中心としながらの最適商品ラインナップを構築することで更なる客数増加を図ります。

次に、海外吉野家事業につきましては、市場ポテンシャルが非常に大きい中国と米国を戦略的出店地域として、経営資源を集中させることで急速展開を図り、吉野家のグローバル展開を更に加速してまいります。また、新規エリア開拓といたしましては、インドネシア、韓国、欧州への出店を計画しております。

国内事業につきましては、全体としては継続的な安定成長を図りながらも、それぞれの事業会社の成長ステージに応じた成長戦略を推進してまいります。創成期にある事業会社は事業基盤の確立を目指して、創成期から成長期へと移行する会社は出店の加速化を図りブランド価値を高めてまいります。

こうしたそれぞれの事業分野における中期事業戦略を推進し、中期経営計画目標を達成するために純粋持株会社である当社は、投資家的な視点で投資効率の向上を図りながら、それぞれの事業会

社の成長ステージに応じたサポートを行ない、各事業会社とともにそれぞれの業態におけるトップブランドとしての地位の確立を目指してまいります。加えて、積極的な M&A の推進や事業再編を行なうことによって、最適事業ポートフォリオを構築し、グループ企業価値の増大に努めてまいります。

4. 目標とする経営指標

当社グループの平成 19 年 3 月から平成 23 年 2 月までの 4 年間を対象として策定いたしました「The Next Stage 2010」中期 4 力年計画の中で、その最終年度において到達目標として掲げております、グループ店舗数 3,500 店、連結売上高 2,100 億円、連結経常利益 220 億円をそれぞれ達成することを具体的な数値目標としております。

5. 当期の見通し

我が国の経済環境は、企業収益が高水準で推移し、設備投資や雇用者所得が緩やかな増加を続け、個人消費は底堅く推移しております。その一方で原油高の影響などにより物価への影響も出始めております。外食産業におきましては、市場規模の縮小は鈍化傾向にあるものの、競争の熾烈化による市場全体における既存店売上高の低迷の長期化といった経営環境が続いております。

こうした厳しい経営環境下ではございますが、当社は純粋持株会社としての新たなグループ経営体制において、中期経営計画を実現すべく諸施策を推進してまいります。当社グループの平成 20 年 2 月通期連結売上高は 1,630 億円、営業利益は 84 億円、経常利益は 90 億円、当期純利益は 35 億円を見込んでおります。

また、10 月 1 日をもって純粋持株会社となりました当社の平成 20 年 2 月期（平成 19 年 3 月 1 日から平成 19 年 9 月 30 日は（株）吉野家ディー・アンド・シーの個別業績を、平成 19 年 10 月 1 日から平成 20 年 2 月 29 日は（株）吉野家ホールディングスの業績を合算しております。）の個別決算の業績見通しといたしましては、売上高 533 億円、営業利益 41 億円、経常利益 46 億円、当期純利益は 13 億円を見込んでおります。